

## 幹事長日誌

(平成20年1月1日～12月31日)

鎌田英明

1月1日(火、元旦): 快晴

平成も20年となった。月日の経つのは本当に早い。

愛犬の散歩がてら近所の「初日の出スポット」に出かける。早朝にもかかわらず、車道の両側には車の列、そして黒山の人だかり。皆、考えることは同じか。そんな中、なんとか人々の合間から「平成20年の初日の出」を見届け、今年も神皮の発展があらんことを祈る。

1月17日(木): 曇り、於/ホテルキャメロットジャパン

第3回神奈川フットケア研究会(共催:鳥居薬品)

今年の神皮初仕事はフットケア研究会。

「皮膚科医が展開するフットケア～フットケア外来の現状～」

済生会川口総合病院 皮膚科部長 加藤 卓朗

「看護師が行うフットケアの実際～動画を用いた手技の解説～」

済生会川口総合病院 看護部 フットケアワーカー 大須賀 範子

お二人に講演をお願いする。在宅共々、コワーカークの参加が回を重ねるにつれ増えている。袋委員長ではないが、今後会場の確保が困難になりそうで、嬉しい悲鳴である。

しかし、時間をかけた丁寧なフットケアの動画には感心させられたが、これが医療収入に反映されない現実を思うとなんとも複雑な気分になる。参加者:186名。

1月19日(土): 晴れ、於/横浜ベイシェラトンホテル

常任幹事会

栗原会長の下、今年も常任幹事会が始動。

相変わらず各委員会共活発な活動予定がだされ、今年も神皮はいろいろ面白そうである。

1月24日(木): 晴れ、於/ブリーズベイホテル

編集委員会

初積雪の翌日、厳しい冷え込みの中委員が集まり、「神皮15号」の最終打ち合わせ。

かまくら春秋社の担当も山本さんに替わられた。

1月27日(土): 神皮折込用名簿データを配信。

1月31日(木): 晴れ、於/ホテルコスモ横浜

第2回産業委員会勉強会

「職業性皮膚疾患とそのネットワーク作り」産業医科大学皮膚科 戸倉新樹教授

寒さ厳しい中、遠来の戸倉先生をお招きしてご講演をいただいた。名座長の日野治子先生の誘導で、本来の講演もさることながら、奥様との馴れ初めやご趣味の音楽のことまで話が及び、戸倉先生のお人柄も伝わる会になった。参加者:27名。

2月4～9日: 第10回感染症サーベイランス施行。

2月16日(土): 晴れ、於/ホテルキャメロットジャパン

第8回Joy Derma Club

「院内・外トラブル対処法」講師:みなと綜合法律事務所 海野 宏行

「医院経営と雇用管理」講師：三井田人事労務事務所 三井田 浩  
立场上、私も聞いてみたい演題です。参加者：38名。

2月27日（水）：晴れ、於／横浜ベイシェラトンホテル

健保委員会

例会時の健保問題Q&Aの検討と、4月の診療報酬点数改定説明会の打ち合わせ。  
2年に一度の大仕事。

3月2日（日）：晴れ、於／小田急ホテルセンチュリー相模大野

第126回神奈川県皮膚科医会例会（共催：ノバルティスファーマ）

テーマ「母斑症診療へのアプローチ」

「高発癌性疾患の臨床、診断、遺伝的側面」

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 皮膚科分野准教授 久保 宣明

「母斑症の臨床—その新たな展開」埼玉医科大学皮膚科教授 倉持 朗

ミニレク「いわゆる特染について Part2」齋藤 典充

米元康蔵担当幹事の「母斑症」への想いが伝わってくる例会でした。参加者：113名。

3月27日（木）：晴れ、於／ワークピア

診療報酬改定説明会

今回の改定点につき、健保委員会でまとめたものを会員に伝達。

いつものことではあるが、例会よりも皆真剣（?!）。

4月1日（火）：「足の健康チェック」開始。

フットケアへの関心の高まりの中、神皮としても良い企画を立ち上げたと思う。参加される先生方、ご面倒をかけますが、よろしくお願ひします。

4月10日（木）：雨、於／ホテルキャメロットジャパン

神奈川県皮膚科医会、春の講演会（共催：ヤンセンファーマ）

「足の健康チェック」開始に合わせて行われたキックオフイベント。

情報交換会で食って飲んでばかりいるなということで、私にも講演のお役が回ってくる。

皮膚科医が足を診て、全身疾患発見のゲートキーパーになる。栗原会長の構想が動き出した。

4月12日（土）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急

第9回Joy Derma Club

テーマ：「化粧品とかぶれ」講師：しょうの皮膚科 生野 麻美子

若い参加者も多かったとか、例会への呼び水になれば…… 参加者：46名。

4月24日（木）：雨、於／横浜ベイシェラトンホテル

会計・会務監査

滝沢・杉本両監事をお招きして、会計、及び会務についても広くご意見をうかがう。

医会の昔話も含め、お話をうかがえることは有意義だと感ずる。

また、発行期間が延びた会員名簿に関して、苦言が呈された。会員相互の連携には、やはり2年に一度の発行に努力すべきか？ 幹事会で再度議論を。

5月17日（土）：晴れ後雨、於／横浜ベイシェラトンホテル

常任幹事会

最近、例会参加費の減少、すなわち参加者減があることが日下部会計より指摘有り。ややマンネリ化が見られることも事実であり、今後、会員の参加意欲を掻き立てるような企画を考えていくべきであろうということで、意見を出し合うこととなる。

また、発刊期間が延びた会員名簿についても期間の見直しが討議された。

議論の続きは増田副幹事長にお任せし、会長、宮川常任幹事と共に帝国ホテルで行われた、

帝京大学溝口病院皮膚科教授に就任された清佳浩教授のお祝いに駆けつける。タカラジェンヌのお嬢様のお仲間がゲスト出演され華を添える。さすが「目力」が違いました。

5月24～25日（土・日）：雨、於／品川プリンスホテル

第24回日本臨床皮膚科医会総会

今年の日臨皮にも、学術・サーベイランス委員会と、在宅委員会から2題のポスター演題を提出し、神皮の名前をアピールできました。高須先生、山田先生ご苦労様でした。

打ち上げを兼ねて一席。皆よう飲みました。

6月初旬：新年度に向け、幹事候補者に所属委員会の希望を取る手紙を発送。

6月下旬：総会PPT作成。委員会所属決め。その他例会準備。

7月3日（木）：曇り、於／横浜ベイシェラトンホテル

健保委員会

健保Q&Aへの回答、ならびに改定後の問題点などを話し合う。

今後、例会時に健保の解説コーナーを作り、更に開かれた審査を目指すことで委員間の同意が得られた。

7月6日（日）：晴れ、於／ホテルキャメロットジャパン

第127回神奈川県皮膚科医会例会・総会（共催：科研製薬）

テーマ「心と皮膚」

「感じ考え語る表皮」資生堂研究所 主任研究員 傳田 光洋

「こころと皮膚はどんな関係？～精神からのアプローチ～」

横浜市立みなと赤十字病院 精神科部長 石東 嘉和

ミニレク「当院における褥瘡対策の工夫」小川 純己

「病は気から」いや「気は病から」(?!)、野村有子担当幹事の「心と皮膚」という、難しいテーマへの挑戦が成功した例会でした。我が同級生、石東先生のご講演も評判で、紹介者としても嬉しい限り。参加者：132名。

また総会では、8名の幹事が退任。新たに9名の新幹事が就任。2年間の任期を終えた栗原内閣の続投が承認された。

7月7日（月）：県医学術へ報告。

7月10日（木）：於／横浜エクセルホテル東急

第128回神奈川県皮膚科医会学術講演会準備会（神皮企画委員会、バーリンガーインゲルハイム共催）

127回の反省会を兼ね、今後の例会の準備委員会。

今回から会長、副会長は会に参加せず、若手が意見を出しやすくし、最近例会参加が少ない若い世代をターゲットに、参加してみようと思わせる、魅力ある例会を目指す。

約2年先のことまで討議される会だが、伝統を残しつつ会員、特に若い世代に魅力あるテーマをとるとなかなか難しい。

7月中旬：各委員会委員構成最終確認、周知。

8月2日の共催講演会の最終打ち合わせ。他。

7月28日～8月2日：第11回感染症サーベイランス試行。

8月2日（土）：晴れ、猛暑

神奈川県皮膚科医会「夏の勉強会」（共催：協和発酵）

「蕁麻疹診療の実際—抗ヒスタミン薬の特徴と使い分け—」

島根大学医学部皮膚科学 教授 森田 栄伸

医会としての新しい試みの一環で、メーカー共催の勉強会。例会とは趣を異にし、各メーカー

の得意分野で、医会と相談しながら講師や演題内容を絞り込み、出来るだけ企業色を排除したものとしていくとのコンセプト。

夏休みを早めに切り上げた栗原会長も日焼け顔で駆けつけ、ご講演のあとの「暑気払い」も盛況に終了しました。参加者：69名。

8月下旬 : 神奈川県皮膚科医会「秋の勉強会」(神皮、マルホ共催)の準備に入る。  
夏の勉強会の成功と経験を元に秋の勉強会の準備に入る。企業色を抑えると言うのもなかなか折合いが難しいものだ。

9月11日(木) : 晴れ、於/ホテルキャメロットジャパン  
第17回在宅勉強会(共催:興和創薬)  
医会の看板になってきた感のある在宅勉強会。今年も袋委員長の下盛会裏に終了。  
一般演題:「在宅褥瘡調査:皮膚科医の在宅褥瘡への介入効果について」  
ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平  
特別演題:「藤沢市民病院における褥瘡の医療連携~理想と現実のはざままで~」  
藤沢市民病院 医療支援部 地域医療連携室 WOC相談室担当 内藤 亜由美  
内藤看護師のご講演は、病院と診療所の連携がうまくいき理想的に推進されている藤沢市民病院の例をあげて、大変な仕事をさらっと話された。平均在院日数などのハードルの前にあって、急性期病院での褥瘡の入院は厳しいものが有る。ご苦勞が偲ばれる。  
袋先生も、褥瘡で全国区になってきているようで喜ばしい。参加者:161名。

9月17日(水) : 晴れ、於/横浜ベイシェラトンホテル  
広報委員会  
11月9日予定の「ひふの日」イベントに関する最終打ち合わせとして、急遽開催。  
野村有子先生からバトンを託された小林誠一郎先生のご苦勞がひしひしと伝わってくる。  
来年は「神奈川健康ウォーク」という催しにエントリーする案が提案され、試みに参加することです承された。  
企業の寄付、展示、サンプル供与も減少する傾向にあり、ひとつの解決策になることも考えられる。

9月20日(土) : 晴れ、於/横浜ベイシェラトンホテル  
産業医委員会  
企業の経費節減もあり、皮膚科医が産業医となることはなかなか難しくなっているようであり、昨年も委員会でも出されたように、職業性皮膚疾患に関してもっと一般皮膚科医の関心を高めていかなければならないという結論に達し、そのためには神皮会員にもっと関心を持ってもらえる勉強会にすべきとのご意見を新聞委員からいただき、試みとして明年の勉強会は「神皮新春勉強会」として行うことなどが決められた。

9月25日(木) : 晴れ、於/ホテルキャメロットジャパン  
学術・サーベイランス委員会  
感染症サーベイの報告、11回目を迎えたが大きな変動はないとのこと、定点が横浜に偏る傾向にあり、他地域を新たに加え今後も継続することで同意。継続は力なり。  
抗真菌剤の自主研の方は上手く進行していないとのこと、目標の再考が必要になってくるかもしれない。  
メーカーとの兼ね合いで、「委員会」の開催方法が見直され始めており、次回は新しい「講演会」方式をとることが決められた。数年後の医会はどうなっていくことやら……。

10月1日(水) : 足の健康チェック(秋)開始。  
11月末までの2ヶ月間の予定。多くの参加施設を望みたいが、多忙な中でのチェックには

消極的な意見も聞こえて来るが、当科では初日に3件、まあまあのスタート。

- 10月15日（水）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急  
臨時健保委員会  
更に開かれた保険審査を目標に、また審査の話が参加者数が頭打ちになりつつある例会への呼び水となるべく、知恵を出し合う。
- 10月17日（金）：晴れ、於／パンパシフィック横浜ベイホテル東急  
KDA-PILZ打ち合わせ会  
畑康樹先生を中心に進められている自主研。協力メーカー側との齟齬が生じ始めていると  
のことで、修正のための会合。さほど大きくずれているわけではなくホッとする。
- 10月25日（土）：晴れ、於／ホテルモントレ横浜  
常任幹事会  
例会、委員会、「ひふの日」と盛り沢山の内容にあつという間に2時間を超える。  
毎回思うが、それぞれ多忙の中、ボランティアで参加してくださる先生方に感謝である。
- 11月9日（日）：雨、於／ハマギンホール  
ひふの日  
あいにく降り始めた雨にも関わらず370余名の参加者で、今年も賑わった。  
広報委員を始めとし、ボランティアで皆がんばってくれました。  
来年からは「神奈川健康ウォーク」にブースを借りる形で開催する案が出ており、形態は  
変わるかもしれないが、継続していくことが大切か。
- 11月15日（土）：晴れ、於／パンパシフィック横浜ベイホテル東急  
第10回Joy Derma Club  
テーマ：歩行、フットケア  
「健康は足から」 爪切り屋、足楽 稲田 説子  
「歩行と足の疾患について」  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 整形外科教授 笹 益雄  
今回も盛り上がったようです。参加者：47名。
- 11月20日（木）：晴れ、於／ホテルニューグランド  
秋の勉強会（共催：マルホ）  
「専門医試験にみるウイルス感染症」 高須 博  
「帯状疱疹について」 東京慈恵会医科大学付属青戸病院皮膚科教授 本田 まりこ  
春、夏に続く「秋の勉強会」。共催マルホさんのご努力もあり、198名の参加者（皮膚科142  
名その他56名）と大盛況で、ニューグランド「ペリー来航の間」がほぼ満席となる壮観さだっ  
た。普段の例会もこうなるよう頑張らねば。
- 12月3日（水）：晴れ、於／横浜ベイシェラトンホテル  
健保委員会  
保険審査の実態を、誤解のないようにいかに会員の先生方に伝えていくか、議論白熱。  
みんな一生懸命です。
- 12月7日（日）：快晴、於／川崎日航ホテル  
第128回神奈川県皮膚科医会例会（共催：日本ベーリンガーインゲルハイム）  
テーマ「口腔粘膜疾患」  
「日常よく見る口腔粘膜病変」 関東中央病院 皮膚科部長 日野 治子  
「白板症」 北里大学名誉教授 西山 茂夫  
「上手なレセプトの書き方2～どこがいけないの？～」 増田 智栄子

望月担当幹事の心配をよそに盛会裏に終わる。参加者：157名。

12月8日（月）：県医師会学術へ報告。

12月10日（水）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急

第129回神奈川県皮膚科医会学術講演会準備会（神皮企画委員会、大塚製薬共催）

128回の反省会を兼ね、今後の例会の準備委員会。

今後の各例会担当幹事のビジョンに基づき内容、構成について討議。

いろいろなアイデアが出てくるのは楽しい。

12月31日（水、大晦日）：晴れ

忘年会の嵐も止み、今年もまたいったいいくつ年を忘れたのでしょうか……。

今年も大過なく医会活動が進められ、会員諸先生方に感謝しながら、今年最後の一杯。

## 委員会報告

# 学術・サーベイランス委員会だより

米元康蔵

この委員会の運営を仰せつかって2期目になりました。

現在の主な活動内容は、定例となりました年2回夏と冬の皮膚感染症のサーベイランス、そして昨年まで行っていたKDA-PILZ（難治性爪白癬に対する抗真菌内服薬単独療法と外用あるいは爪処置併用療法との効果比較）のまとめ、ということになります。感染症サーベイでは、その定点となって実施していただいている35施設の先生方、本当にありがとうございます。どうぞこれからもよろしくお願い致します。また、新たに参画していただいております伊勢原の山本 修先生そして湯河原の内藤静夫先生、よろしくお願い致します。このサーベイの結果に関しては、昨年日本臨床皮膚科医会総会で過去10回の集計として副委員長の高須 博先生が発表してくれました。

今後また集積したデータは、まとめて発表することになるはずですが、爪白癬治療のKDA-PILZに関しては、この5月に高知で開かれる第25回日臨皮総会で副委員長の畑 康樹先生がその最終結果を発表します。おそらくごく近いうちに、論文として会員の皆さんの目にとまることになるものと考えています。米元・高須・畑のほかに当委員会を構成してくれているメンバーは、朝比奈昭彦・大木 和・金子 聡・杉田泰之・高橋泰英・原 尚道の各先生方です。これから委員会としては、さらに当皮膚科医会のアクティビティを高めるよう企画を練りだしていきたいものと考えています。

### 平成20年度の事業報告

平成20年7月28日～8月2日	第11回感染症サーベイランス
平成20年9月25日	学術・サーベイランス委員会
平成20年10月17日	KDA-PILZ 打ち合わせ・検討会
平成21年2月2日～7日	第12回感染症サーベイランス
平成21年2月14日	学術・サーベイランス委員会ならびに学術講演会 「乾癬の新しい治療の展望」 演者：朝比奈昭彦

## Joy Derma Club だより

村上富美子、大沼すみ

### 第9回 Joy Derma Club セミナー

日 時：平成20年4月12日（土）18：00～21：30

場 所：横浜エクセルホテル東急「白馬」

共 催：神奈川県皮膚科医会、マルホ株式会社

参加者：神奈川県皮膚科医会会員の女医43名、他科医師2名

#### プログラム

#### 1. 「スキンケアとヒルドイドシリーズ」 マルホ株式会社

各種ヒルドイド製剤の紹介と、各々の特徴、乾燥肌の構造とスキンケアについて紹介されました。

#### 2. 「皮膚科医師サポートシステムについての報告」 増田智栄子先生（いずみの皮膚科）

皮膚科医師サポートシステムの運営について、参加の先生方のご協力をお願いされました。

#### 3. 「ブリックテスト・アトピーパッチテスト・パッチテスト」 生野麻美子先生（しょうの皮膚科）

ブリックテストの手技、判定方法について、乳児食物アレルギーの診断と特徴について、接触皮膚炎の主要なアレルゲンとその特徴とパッチテストについて講演されました。特に歯科技工士の職業性接触皮膚炎については、職場訪問の大切さを発表されました。

◎第10回は平成20年11月15日に「靴」をテーマにセミナーを開催予定です。たくさんの女医の皆様の参加をお待ちしております。

（担当：大沼すみ）

### 第10回 Joy Derma Club

日 時：平成20年11月15日（土）18：00～

場 所：パンパシフィック横浜ベイホテル東急

共 催：ポーラファルマ株式会社

参加者：47名

#### プログラム

#### 1. 「秋！輝く美肌を手に入れる上品メイク ～しみ、しわ、たるみ、敏感肌対策～」 ポーラファルマ株式会社

#### 2. 特別講演 テーマ「歩行、フットケア」

##### 1) 「健康は足元から」 爪切り屋 足楽 稲田説子先生

爪は踏ん張るためにあり、爪切りの基本は「スクエア・オフ」、そして少しずつ切る方がよく、高齢者では誤った爪切りをしていると歩行障害につながりADLの低下を招くことがあるというお話がありました。実際の手順は①足浴、②汚れを取る（ゾンデを使用し角質除去を行う）、③爪を切る、④磨く（内か

ら外に磨く)。実際にフットケアにより車椅子生活だった高齢者が自立歩行できるようになったビデオが紹介されました。初回の処置には1時間～1時間半かかり、その後定期的なメンテナンスが必要であるなど実践に基づいた講演をしていただきました。

2) 「歩行と足の疾患について」 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 整形外科教授 笹 益雄先生

荷重は踵、母趾MP、小趾MPの3点で支え、伸筋腱と屈筋腱の拮抗作用で歩行は構成されているという歩行の基礎と尖足、扁平足のメカニズム、外反母趾の診断など学生時代を思い起こさせる整形外科の基本について講演していただきました。

### 3. 懇親会「天高く女医肥ゆる秋」

大いに口が動く（話も食事も）賑やかな会でした。

(担当：村上富美子)

## 委員会報告

# 在宅医療委員会だより

袋 秀平、山田裕道

### ●第3回神奈川フットケア研究会報告

日 時：平成20年1月17日（木）19：00～21：00

会 場：ホテルキャメロットジャパン 4F：フェアウインドウ

参加者：会員52名、コメディカル134名 計186名

共 催：鳥居薬品（株）

講演テーマならびに講師：「皮膚科医が展開するフットケア～フットケア外来の現状～」

済生会川口総合病院 皮膚科 加藤卓朗先生

「看護師が行うフットケアの実際～動画を用いた手技の解説～」

済生会川口総合病院 看護部 大須賀範子先生

足のイボ、タコ、ウオノメ、爪の変形・混濁、陥入爪、足底の角化、糖尿病や慢性関節リウマチによる足の潰瘍などは、皮膚疾患にもかかわらず、皮膚科以外の診療科や、場合によっては医師、看護師の免許のない者までもが関わりを持ち始めています。そこでわれわれ皮膚科医ももう一度足元から見直し（診直し）、皮膚全体からフットケアを考えるため、皮膚科関連のコメディカルと一緒に勉強しようということになり、一昨年に在宅医療委員会主催で神奈川フットケア研究会を立ち上げました。

今回は実際に病院にてフットケア外来を実施している済生会川口総合病院から、皮膚科部長で、水虫博士としても有名である加藤卓朗先生と、フットケアを実践している看護師の大須賀範子先生をお招きしました。このお二人はすでに日本中あちらこちらから、フットケア外来の講演を依頼されてご活躍中です。加藤先生にはフットケアの概論と済生会川口総合病院におけるフットケア外来開設の経緯などを、大須賀先生にはフットケア外来における患者の流れ、動画を用いて実際の足の手入れの有様を細かく解説して戴きました。この会としては初めての看護師さんの講演でもあり、非常に多くのコメディカルの方に興味を持って戴きました。

県皮膚科医会の会員の先生が52人、コメディカルの皆様が134人で、合計186人の参加があり、広い会場も満席となり盛況のうちに終了しました。



## 皮膚科医が展開するフットケア～フットケア外来の現状～

済生会川口総合病院 皮膚科 加藤卓朗

足（爪を含む）の治療とフットケアを分類し、それぞれにおける皮膚科医の役割を考察した。まず皮膚科医は一般診療で足の病気の診断と治療を行っている。リスクの高い患者の脚の切断を防ぐために複数の科が連携して行うチーム医療においても早期病変の診断と治療を担っている。狭義のフットケアを日常、医療、美容に分類した。患者本人や家族などが行う健康な足に対する日常のケアでは、異常の有無の判定、トラブル発生時の対応などが期待される。病院スタッフが行う医療的ケアでは、足の評価（アセスメント）、患者や家族の指導・教育、実際の行為を行うが、皮膚科医には多くの役割がある。美容的ケアにも問題がある。一方、足の治療やフットケアに関する専門家がいる。皮膚科医の関わり方は、手技を習得して治療に応用するか、専門家との連携である。当科におけるフィンランド式のフットケアワーカー（看護師）との連携を白癬治療への応用を含めて報告した。

## 看護師が行うフットケアの実際～動画を用いた手技の解説～

済生会川口総合病院看護部 フットケアワーカー 大須賀範子

演者は爪切り屋メディカルフットケアJF協会会長の宮川氏が主催している講習会で2001年より15ヶ月間、フィンランド式フットケアの技術を学んだ。2002年に済生会川口総合病院皮膚科外来で医師と連携しフットケア外来を設立し、現在まで300名余りの患者にフットケアを行った。今回は、フットケア外来の現状を示すとともに、動画を用いて当院で行っているフットケアの手技を解説した。ケア対象者は皮膚科医師の診察後同意を得た患者で、ケア手順は、観察・記録、ケア前後の写真撮影、足浴、拭取り、湿布、角質除去、爪切り、ファイル（ヤスリかけ）、必要時繊維の挿入（巻き爪や陥入爪）、マイクログラインダーで削る（硬厚爪、胼胝）、マッサージである。ケア実施中に本人や付き添い者に「自宅で行なう足と爪のケア」のパンフレットを見せながら、正しい爪切りや靴の選び方、履き方を個々にあわせて指導している。

（文責：山田裕道）

### ●第17回神奈川県皮膚科医会在宅医療勉強会

日時：平成20年9月11日（木）19：00～

会場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：医師36名、コメディカル126名：計162名

共催：興和創薬株式会社

講演テーマならびに講師：①在宅褥瘡調査：皮膚科医の在宅褥瘡への介入効果について

ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平

②藤沢市民病院における褥瘡の医療連携—理想と現実のはざま—

藤沢市民病院医療支援部地域医療連携室WOC相談室担当 内藤亜由美先生

## 講演内容

①

### 1. 昨年度の在宅褥瘡調査報告

平成19年度に厚生労働省老人保健健康増進等事業として日本褥瘡学会が在宅における褥瘡調査を行い、その一部を神奈川県皮膚科医会が担当した。その結果について報告した。

皮膚科医が褥瘡治療を行った方が、

- ・褥瘡が速やかに改善する傾向がある。
- ・DESIGNが減少しやすい。
- ・患者・家族の満足度が高い。

ことが明らかになった。皮膚科医が在宅における褥瘡治療に、できれば早期に介入することによって褥瘡の改善は速やかに進み、時間と医療費の節減が期待される。しかし皮膚科医の在宅医療への参画は十分とは言えず、多忙な診療の合間に往診するためのモチベーションとなる診療報酬の改善などの施策を期待する。

2. 褥瘡学会関連情報として、勉強会の2週間前に行われた第10回日本褥瘡学会のトピックス、褥瘡認定師、在宅褥瘡予防・管理師の資格が制定されたこと、今後の神奈川県関連の褥瘡関係の学会、セミナーについて報告した。
3. 往診医マップについて、会員にアンケートをとり作成中であることを報告した。

## ②

平成19年度に日本褥瘡学会の調査報告により、在宅における褥瘡ハイリスク要因は、1. ベッド上基本動作能力なし（寝たきり）、2. 栄養状態低下、3. 病的骨突出の3点であり、在宅における褥瘡の特徴は、重症かつ治癒遅延状態であるということが明らかになった。一方、急性期病院は2002年に褥瘡対策未実施減算が施行されて以来、褥瘡対策チームの設置が義務付けられ、褥瘡リスク保有患者へ適切な体圧分散寝具が使用できる環境となった。その結果、寝たきり患者の院内褥瘡発生は減少し、院内発生しても軽症であることが多く、在宅における褥瘡の特徴と相反する状況となっている。

しばしば急性期病院や療養型病院、施設、在宅など、発生した場所が話題となるが、患者は地域の中でさまざまな医療福祉サービスを受けながら暮らしている「地域の住民」であり、発生場所に後ろ向きにこだわるよりも、それぞれの保健医療福祉機関の置かれている状況を理解し合い「地域ぐるみの褥瘡対策」を前向きに実践していくことが、地域全体の褥瘡患者を減少させることにつながると考える。

また、しばしば直面するのは「End of lifeの褥瘡」である。悪性疾患の有無に関わらず、在宅で安らかな自然死を望んでいらっしゃる高齢者が褥瘡局所の変化で救急搬送される場合がある。急性期病院の入院環境は療養ではなく治療の環境である。治療を目的とするためには苦痛を伴う処置が必要になる場合があり、安らかに人生の最期を迎えたいというご希望と矛盾してしまうことがある。局所だけではなく、その人全体をみて、褥瘡局所治療を考えなければ、木を見て森を見ずといった状況を招くこととなる。End of lifeの褥瘡はpalliative careも選択肢の一つであると考ええる。

このような状況の中、当院では、皮膚排泄ケア（WOC）認定看護師が地域医療連携室内のWOC相談室に専従で勤務し、褥瘡対策チームと地域保健医療機関とも連携を図って活動を行っている。2008年度は、関連諸団体のご理解とご協力のもとに、褥瘡の地域医療に関心のある保健医療従事者で「藤沢褥瘡研究会」を設立する運びとなった。

急性期病院は、退院先確保の後方連携を連携と思いがちであるが、重症患者については相談し合える前方連携も大切に、双方向性の連携を構築していく姿勢が必要であると考ええる。施設の壁を越えて相談し合える関係を築くことで、限りある病床数や医療資源を有効活用できる地域医療が展開できることにつながると考える。本日は、在院日数短縮化を余儀なくされている急性期地域基幹病院と在宅医療を担う地域保健医療機関との間で褥瘡医療に関する地域からのニーズに応えるべく調整役を担う者の、理想と現実のはざままで苦心している現状と今後の課題について実際の症例を提示しながら報告する。（文責：袋 秀平）

## 委員会報告

# 編集委員会だより

川口博史

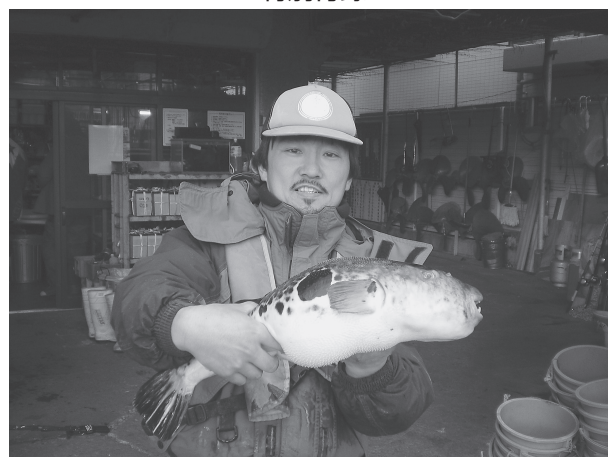
神皮16号は会員名簿の発行に合わせる形で7月発行となりました。そのため例年は秋に第1回の委員会を開催していましたが今回は動きだしが遅く、委員会活動は年明けからの始動になりました。毎年寄稿して下さる先生からは秋に原稿をいただいてしまい申し訳ありませんでした。

特に地域の医会活動の記録の場として神皮を使っていたきたいと考え、今号では地域医会の報告の頁を充実させました。地域によっては人手不足などもあるようですが、会員の皆さんが地域で活躍して、また積極的に勉強している様子がよくわかると思います。これらの活動報告が、皆さんが今後勉強会に参加する際の参考になればと思います。

また会員の多彩な趣味や才能は、「私の趣味」などから皆さんによく伝わってくると思いますが、これからも多芸多才ぶりを紹介していきたいと思います。自発的な原稿も大歓迎ですのでよろしくをお願いします。

〈編集委員:川口博史(委員長)、河原由恵(副委員長)、浅井俊弥、大林寛人、小野秀貴、高橋さなみ、山本 修〉

## 特別付録



昨年マダイ狙いで3.6kgのトラフグを釣りました！ いや、釣れちゃいました。残念ながらメスで白子はありませんでしたが、天然トラフグのフルコースを堪能することができました。

## 委員会報告

# 産業医委員会だより

宋 寅傑

産業医委員会では平成20年9月20日(土)に横浜ベイシェラトンホテルにおきまして第9回産業医委員会を開催いたしました。出席者は下記の通りです。

足立 真・金丸哲山・鎌田英明・栗原誠一・黒澤傳枝・齋藤蓉子・宋 寅傑・新関寛二・日野治子・平松正浩(敬称略)

この日の委員会では以下の議題が報告、検討されました。

1) 2008年7月決定の委員会委員およびオブザーバーについて

今期は、新任の委員はおらず、残念ながら委員合計人数は減少しました。

委員長代行：鎌田英明

副委員長：宋 寅傑

委員：足立 真・尾見徳弥・栗原誠一・黒澤傳枝・齋藤蓉子・  
新関寛二・日野治子・平松正浩・吉田秀也

オブザーバー：金丸哲山・増田智栄子・毛利 忍

今期委員辞退：佐藤龍男・望月明子（以上敬称略）

2) 産業医委員会活動報告（2007年9月29日 第8回産業医委員会以降の活動）

①第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会での発表

産業医科大学皮膚科 戸倉新樹教授からの依頼により2007年12月15日（土）

第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会にて、下記演題を発表。

演題：ワークショップ 職業性皮膚疾患診療ガイドライン作成へ向けて

“勤務医・開業医からみた産業医活動”

演者：宋 寅傑

②第2回産業医委員会勉強会開催

2008年1月31日（木）ホテルコスモ横浜にて。

出席者数は、残念ながら27人と、かなり少なめでした。

詳細は別ページに記載しましたので御参照ください。

③産業医科大学 職業性皮膚疾患NAVIへの協力

第2回勉強会で戸倉教授より提示された職業性皮膚疾患NAVIに医会としても協力して行こうということになり、2008年3月の第126回神皮例会にて出席者に趣旨説明。6月にも幹事宛メールにて医会幹事に再度協力を要請。その結果、2008年9月までに計7名の医会会員が職業性皮膚疾患NAVIに登録。

④2008年5月 皮膚病診療に下記原稿掲載

宋 寅傑：展望“産業医活動の現状と展望”、皮膚病診療Vol.30 No.5：492-498、2008。

内容は2006年3～4月に当委員会が医会会員に対して行ったアンケート調査の結果を中心に、皮膚科医が行いうる産業医活動の現状と展望に関して考察を加えたもの。

3) 第3回と第4回以降の産業医委員会勉強会について

①第3回勉強会について

2009年1月8日（木）ホテルキャメロットジャパン

演者：東北労災病院 皮膚科部長 谷田宗男先生

前回の勉強会で出席者数が低調であったことから次の勉強会ではどのようにして出席者数を増加させるべきかという内容が話し合われました。その結果、まず勉強会の形式を“産業医委員会勉強会”とせず最近医会勉強会で流行している“季節の勉強会”の形式とし、産業医委員会が企画したことを当日出席者に説明することと、もうひとつ演題の題名を堅苦しい題名とせず親しみやすいものとするのが提案されました。勉強会の名称は“新春勉強会”とし、演題名は「最近よくみる職業性皮膚疾患一見直してみよう“かぶれ”」とすることが決まって、後日大変失礼とは存じながら谷田先生に御意向をうかがい、この演題名に御承諾をいただきました。谷田先生には委員一同深く感謝いたしております。

②第4回以降の勉強会について

開催日時については、2010年3月から5月の少し暖かい季節でよろしいのではないかと提案されました。

また、講師については、今後さらに模索するというので、この日の話し合いは終了しました。

この日の委員会も、共催会社との取り決めにより、現行のルールに則って開催するという事で、アルコールは一切無し、お弁当とお茶のみで委員会を進めました。最近の社会の風潮から考えますと、お弁当が供されるだけありがたいと思うべきかもしれません。

なお、本委員会から約3ヵ月半を経た2009年1月8日（木）、ホテルキャメロットジャパンにおきまして東北労災病院の谷田宗男先生をお招きし、予定通りに神皮医会『新春勉強会』を開催いたしました。詳細は別ページに記載しましたので御参照ください。

今のところ、年に1回の勉強会の企画をその活動の中心に置いている産業医委員会ですが、今後行うべき活動につきまして、医会の皆様よりいろいろとアドバイスをいただければ幸いと存じます。また、医会幹事であるなし、産業医資格があるなしにかかわらず、産業医というものに少しでも興味がおありの先生は、是非当委員会に御参加いただければ幸いと存じます。今後とも産業医委員会をよろしくお願い申し上げます。

## 第2回 神奈川県皮膚科医会 産業医委員会勉強会

開催日時：平成20年1月31日（木）午後7時15分より

会場：ホテルコスモ横浜（横浜市西区北幸2-9-1）

講演演者：産業医科大学皮膚科教授 戸倉新樹先生

講演演題：「職業性皮膚疾患とそのネットワーク作り」

座長：関東中央病院皮膚科部長 日野治子先生

企画：神奈川県皮膚科医会 産業医委員会

### 「職業性皮膚疾患とそのネットワーク作り」

戸倉新樹 産業医科大学皮膚科教授

#### 職業性皮膚疾患全体について

職業と密接に関連した疾患は職業性疾患と呼ばれ、皮膚に限れば職業性皮膚疾患と呼称される。職業性皮膚疾患は多彩であり、発生頻度では職業性疾患全体の首位を占め、その多くは接触皮膚炎であるが、その他、光接触皮膚炎、ざ瘡、色素異常、紫外線障害、慢性放射線皮膚炎、タール・ピッチ皮膚症、砒素皮膚症、熱傷、凍傷、皮膚癌、皮膚循環障害、感染症を含み、多彩である。

#### ネットワーク構築について

職業性皮膚疾患が多いとはいえ、現在までその情報収集と検査についての対策は不完全であった。産業医大皮膚科では、2007年10月に「職業性皮膚疾患NAVI」(<http://hifunavi.umin.jp/>) というホームページを立ち上げた。これは、会員へID、パスワードを配布し、会員の匿名性を確保した上で、産業化学物質による職業性皮膚疾患発生時に、事例報告入力フォーマットへ報告していただき、産業化学物質による皮膚疾患の発生状況を迅速に把握するため当教室で設立したシステムである。物質を早期に把握できるようになるためには、多くの皮膚科の先



戸倉教授



日野先生

生方に会員になっていただき、報告していただく必要がある。個人を特定されないために、名前を使うことなく個々の会員を登録できる2つの情報（会員番号と生年月日：英数字の羅列情報）を産業医科大学皮膚科学教室経由で会員登録することにより、匿名性が確保される。早期に化学物質を登録できる環境を確保しつつ、登録会員を医師に限定することで信頼性の高い情報が蓄積されていくことを目的とする。そのために、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会の共同研究、東北労災病院を中心とする全国労災病院の協力が必要不可欠である。そして日本臨床皮膚科医会会員の登録参加が必要となりますので、この場を借りてお願いする次第です。登録ご希望の方は、担当の織茂弘志（h-orimo@med.uoeh-u.ac.jp）までご連絡下さい。日本臨床皮膚科医会よりご提供頂いた情報は、利用目的の範囲内で利用し、日本臨床皮膚科医会の同意なく利用目的以外に利用することはありません。

### 急性刺激性接触皮膚炎と化学熱傷について

化学熱傷は、酸・アルカリ、フッ化水素、セメント、灯油などで起こる。一次刺激性接触皮膚炎の極型である急性刺激性接触皮膚炎は、接触原である化学物質の種類により特徴ある臨床像を呈する。またその発症機序も個々の化学物質によって異なる。この急性刺激性接触皮膚炎と化学熱傷の間に境界線を引くことは困難であり、同列に論じられる必要がある。化学熱傷は酸・アルカリによる皮膚傷害に対して使われてきた呼称であるが、実際にはその他の機序によっても皮膚炎が誘導される。フッ化水素はその代表的なものであり、速やかに驚くほど深部まで壊死を起こす。酸としてよりも、強力な組織傷害性をもつフッ素イオンの発生により組織を破壊する。セメントは機械的傷害や六価 Cr によるアレルギー性接触皮膚炎を起こすが、慢性の接触刺激では活性酸素の関与も示唆されている。しかし水酸化カルシウムの強アルカリによる腐食作用が最も強い傷害で、セメント熱傷と呼ばれている。灯油皮膚炎は灯油による角化細胞の破壊によるが、サイトカインの関与も考えられている。意外に早く治癒する。過酸化水素の接触によって生じる皮内での酸素発生による水疱形成のように特殊なものもある。

### ボーエン病発症の職業・環境因子について

産業医科大学皮膚科において、1990年1月から2004年12月までの14年間に経験したBowen病（Bowen癌含む）の患者数は196例、そのうち40例が多発例であった。その割合は20.4%であり、他施設からの報告と比べて高率であった。発生部位は、単発例では下肢での発生が最も多く体幹、上肢と続き、多発例では手指、手掌、足背、下腿に多くの病変を認めた。多発例の割合を北九州市内の各地域別にみると、地域格差が認められた。多発例の原因として、少なくとも一部はタールであり、工業での曝露だけでなく、漁業に使う網を強化するために網をタールに浸ける作業をしていた漁業関係者にみられた。

### —追記—

勉強会では上記御講演に先立って、戸倉教授より皮膚科学の御研究と同じ程度に力を入れて技を磨かれている御自身のフルート演奏についてのお話もうかがうことができました。是非一度、戸倉先生のフルート演奏も生で拝聴できる機会が得られれば、と思います。（産業医委員会 宋 寅傑・記）

### 神奈川県皮膚科医会『新春勉強会』

開催日時：平成21年1月8日（木）午後6時45分より

会場：ホテルキャメロットジャパン（横浜市西区北幸1-11-3）

講演演者：東北労災病院皮膚科部長 谷田宗男先生

講演演題：「最近よくみる職業性皮膚疾患 ～見直してみよう“かぶれ”～」

座長：関東労災病院皮膚科部長 足立 真先生

企画：神奈川県皮膚科医会 産業医委員会

## 「最近よくみる職業性皮膚疾患 ～見直してみよう“かぶれ”～」

谷田宗男 東北労災病院皮膚科部長

職業に従事することによって発生、ないし明らかに増悪する職業性皮膚障害は件数がきわめて多い。実際の産業現場では、これらは災害的皮膚障害（業務遂行時に受傷した、熱傷、化学熱傷その他の皮膚外傷など）と職業性皮膚疾患（接触皮膚炎や皮膚腫瘍、色素異常、感染症など種々な皮膚疾患）に大きく分けられる。労災病院グループが取り組んでいる職業性皮膚障害の実態調査では職業性皮膚疾患のなかで、接触皮膚炎（かぶれ）は全体の半数以上を占め、職業では理美容師、看護師、調理、炊事、皿洗い業などの女性の多い職業の頻度が高かった。これら職業性接触皮膚炎の原因や症状は多種多様であり、実態を把握することは簡単なことではない。科学の



谷田先生

進歩とともに、職場の環境因子は複雑になり、工業技術の進歩に伴って職場で使用される物質も変化する。新しい化学物質の出現はこれまで報告されていない皮膚障害を発生させる。原因物質の究明は職業性皮膚疾患の診断、治療と予防に重要である。

今回我々は、宮城県の理美容協会の協力を得て、理美容師の職業性接触皮膚炎についてのアンケート調査を行ない、さらに現在または過去に皮膚炎を起こしたことがある理美容師63例に、持参品および理美容シリーズ各種アレルゲンでパッチテストを施行してアレルギー性接触皮膚炎の原因物質について検討した。パッチテスト陽性率は、製品別では酸化染毛剤が66.1%と最も高く、パーマ液第1剤が44.4%、シャンプーが41.0%と続いた。各種アレルゲンのパッチテストでは、酸化染毛剤の代表的な成分であるパラフェニレンジアミン（PPD）が74.5%と最も高かった。PPDの陽性率が高いことは過去にも数多く報告されており、理美容師のアレルギー性接触皮膚炎における最も重要なアレルゲンであることが再確認された。また、シャンプー中の界面活性剤の1つであるココミドプロピルベタイン（陽性率42.0%）、新しいパーマ液成分として近年使用頻度が増しているシステアミン塩酸塩（陽性率18.0%）が、新たなアレルゲンとして重要であることが見出された。皮膚炎を発症した場合、パッチテストにより原因物質を明らかにし、原因物質を含まない代替品の使用や防具の使用など、原因物質を回避するための対策をとることが根本的な治療になる。しかし、パラフェニレンジアミンについては代替品がなく、現在でも染毛剤の主成分として頻用されていること、皮膚炎予防に不可欠であるグローブの着用率が様々な理由で低いことなどこれらの対策をおこなう上で様々な問題が指摘されている。

今回のアンケート調査では理美容師の多忙な勤務実態環境や理美容師自身の皮膚炎への対応などについても調べており、理美容師も予防の必要性について一定の理解があるものの、実際の勤務上ではグローブをつけづらい環境などのため実践が出来ていない事情などがわかった。これらを理解した上で、就業早期から手の防御やスキンケアなどの予防を実践することが重要である。

## 広報委員会だより

小林誠一郎

### ●2008年度「皮膚の日」行事報告

11月12日は、いい皮膚の日として記念日協会に登録され、医師を中心に皮膚に関する啓蒙活動が続けております。その一環として、平成20年も11月9日（日）にはまぎんホールで、「スキンケアをみなおそう～うるおいのある肌へ～」をテーマにイベントを開催しました。

日 時：平成20年11月9日（日）14：00～16：00

会 場：はまぎんホールヴィアマーレ（横浜銀行1F）

#### プログラム

司会：齋藤典充（北里大学病院） 野村有子（野村皮膚科医院）

I. 開会のご挨拶 栗原誠一（神奈川県皮膚科医会会長、湘南皮膚科）

II. 講演1 「アンチエイジング。美容皮膚科でできること。」

講演者：小林理美（まい皮膚科クリニック）

毎日のケアと美容皮膚科領域の治療について具体的に写真を使い講演していただきました。

III. 講演2 「ただの皮膚病？体の病気？」

講演者：相馬良直先生（聖マリアンナ医科大学皮膚科教授）

皮膚からわかる病気も含めわかりやすく講演していただきました。

IV. ～休憩～ 製品展示・紹介コーナーでの見学会

休憩タイムでは、ホワイエで展示されているスキンケア製品の商品説明を大勢のお客様が熱心に聞き、大盛況でした。

また、無料肌年齢コーナーも希望者が多く盛況でした。

V. 皮膚のトラブルQ&A コーナー

イベント応募時に書いていただいた「皮膚科医への質問」より、乾燥肌・にきび・かゆみなどについて、司会の齋藤典充が以下の先生方に質問をして、答えをもらいました。

担当の先生方：栗原誠一・金丸哲山・袋 秀平・望月明子

VI. 閉会のご挨拶 鎌田英明（神奈川県皮膚科医会幹事長）

VII. ～最後に～ スキンケア製品のサンプリング

また、会場入口にのぼり旗をたて、「お肌のトラブル相談コーナー」を開設しました。

相談医の先生方：渡辺知雄、宮川俊一、大林寛人、尾作 文、川上民裕、澤田俊一、松井 潔、山川有子

#### 〈参加者数〉

来場者数：373名

相談者数：17名



#### 〈協賛：展示メーカー〉（10社）

アクセース株式会社、大島椿株式会社、株式会社資生堂、株式会社スヴェンソン、ダイワボウノイ株式会社、株式会社たまき、常盤薬品工業株式会社、株式会社ポーラファルマ、マルホ株式会社、ユースキン製薬株式会社

#### 〈協賛：おみやげサンプリングメーカー〉（12社）

アクセース株式会社、大島椿株式会社、株式会社資生堂、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、株式会社たまき、常盤薬品工業株式会社、日本ロレアル株式会社、株式会社ポーラファルマ、マルホ株式会社、ミヨシ石鹸株式会社、ユースキン製薬株式会社、ロート製薬株式会社

#### 〈賛助メーカー〉（28社）

アステラス製薬株式会社、インテンディス株式会社、化研生薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、クラシエ薬品株式会社、グラファラボラトリーズ株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、シェリング・プラウ株式会社、日医工株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、マルホ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、塩野義製薬株式会社、科研製薬株式会社、株式会社ツムラ、株式会社ポーラファルマ、協和発酵キリン株式会社、興和創薬株式会社、佐藤製薬株式会社、大正富山医薬品株式会社、大塚製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、第一三共株式会社、鳥居薬品株式会社、田辺三菱製薬株式会社、万有製薬株式会社 藤永製薬

#### 〈労務提供メーカー〉（22社） 27名

アステラス製薬株式会社、インテンディス株式会社、科研製薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、興和創薬株式会社、佐藤製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、塩野義製薬株式会社、シェリング・プラウ株式会社、大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、大日本住友製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、株式会社ツムラ、万有製薬株式会社、鳥居薬品株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、マルホ株式会社、株式会社ポーラファルマ、ヤンセンファーマ株式会社

#### 〈イベント案内掲載〉

朝日新聞、夕刊マリオン、神奈川新聞、定年時代、横浜ウォーカー、懸賞ナビ、石鹸日用品新報

今年より事務局を任じられ開始しました。前任の野村先生のイベント方式を踏襲しようやくイベントにたどりつきました。案内チラシ10,000枚を作成し、各病院や医院、薬局や、協賛メーカー・賛助メーカーをはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。今年はいろいろな県からも応募があり一般応募で370名を超えました。この場をお借りしまして、ご協力を頂きましたたくさんの先生方に感謝申し上げます。

さらに、会場の運営にご協力いただいた横浜アーティスト様、イベントの企画・PRをご協力いただいたJ&Tプランニングの市川純子様、労務提供をいただいた多くの方々にご心より感謝申し上げます。

この記念イベントがこれからもなんらかの形で存続するように、より多くの会員の皆様のご参加、ご協力を御願ひ申し上げます。

# IT 委員会だより

浅井俊弥

朝、診療所についてまず、机の上のパソコンに向かう。職務上、多くの連絡がメールで入ってくるので、必ず診療前に目を通すようにしている。PCはまだwindows XPの環境なので、メールはアウトLOOKエクスプレスを使用中。悩みは、一晩で300通は下らない、迷惑メールの処理である。誰が何の利益があって送ってくるのか、本当に不思議である。ただ、これはウイルスバスターが撃退してくれる、はずであった。だが最近はどうも様子がおかしい。VIAGRA だのMenshealthだの、いくつかの送信者からくる迷惑メールが処理されずに受信トレイに残る。アドレスを「禁止するアドレスに追加」しようとする、何故か自分のアドレス?! 結局、これを禁止してしまうと、MLに宛てて書いた自分のメールがいきなり削除済みアイテムに入ってしまうといった不都合が生じる。困ったものである。

さて、もう1つ、ITがらみの話題は、レセプトオンライン請求の問題である。もちろん医師会の一員として、諸事情を考えれば、制度としての早期完全義務化については反対である。だが、反対だからといって、会員に何の情報も伝えなくてよいのか、あるいは、もう少し具体的に、いつ頃までに、どこまでの準備をすればよいのかを指導する必要はないのか、私もメンバーを務めている

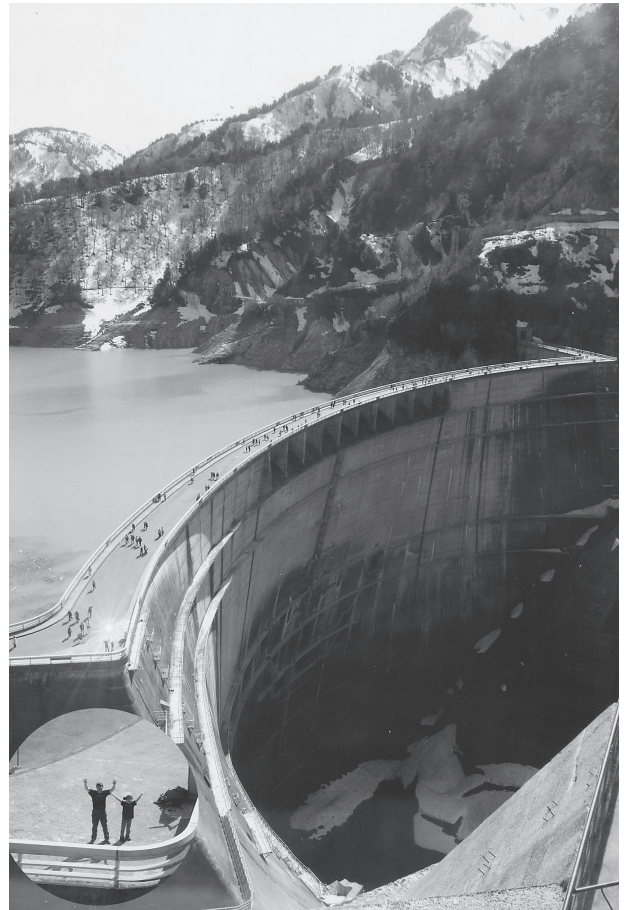
横浜市の情報システム部会で問題となった。結局、会員の個別の質問について、レセコンメーカーの売り込みとは一線を画した、第三者的な立場で相談にのれるように、準備は進めていこうということになった。神皮の会員に対しても、当委員会として、同様の対応を考えている。

当委員会は、委員長の勝手な都合で、なかなかテーブル会議が開けず、あまり会員の先生方のお役に立っていないのが現状であるが、今年度はもう少し、しっかり活動をしようと思う。平成20年度の活動は、以下の通りでHPの更新が主体。誰か、後継者いませんか？

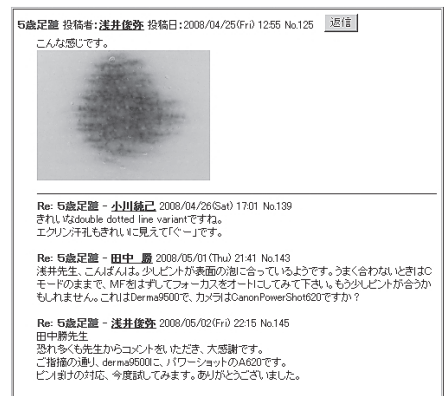
## ●神奈川県皮膚科医会HP・MLの管理

- ・ダーモスコピー掲示板の設置（平成20年4月25日）右図参照

神奈川県皮膚科医会HPのトップ下から、入場可能。掲示板のアドレスは<http://kanahifu.umin.jp/cgi-bin/joyful/joyful.cgi>で、IDはkdamember、パスワードはkurihara。ダーモスコピーなどで撮った



JIMPI BAND on the 黒四ダム（平成20年5月）。閃光の下に写っています



写真をアップロードして、意見交換を行えるように設置。皆様のご利用をお待ちしています（最初だけ盛り上がって、最近は更新されていませんので）。

・県内の医院検索リスト・医院紹介ページの更新（その都度）

診療時間の変更などがありましたら、HPの変更用フォームに記入し、送信して下さい。また大学所属の先生方は、勤務先の変更等、同様の方法でご連絡下さい。

・幹事会、各委員会のMLのメンバー管理（その都度）

メールアドレスの変更などがありましたら、kda@asai-hifuka.comにご連絡下さい。

## ダーモスコピー掲示板の利用説明（2008.03.31）

### 1. 掲示板投稿画面

おなまえ：掲示板に表示されるお名前を記述します。一度入力しますとデータを保持します。

Eメール：入力した場合、投稿完了後に投稿者がリンク形式になりメール送信ができるようになります。

タイトル：入力した場合、投稿データに表示されますが、未記入の場合「無題」と表示されます。

コメント：必須項目です。入力した内容が投稿データに表示されます。

添付File：指定した場合、画像などバイナリーファイルをアップロードして表示することができます。

画像をクリックすることで別画面にて元サイズに基づき画像表示されます。

添付可能ファイル：GIF, JPEG, PNG, TEXT, PDF, MIDI

最大投稿データ量：300KB（800X600以下にリサイズして下さい）

画像は横300ピクセル、縦150ピクセルを超えると縮小表示されます。

削除キー：入力した場合（英数字8文字以内）、その記事は投稿後に削除キーによって削除することができます。

トップに戻る：トップページに遷移します。

留意事項：掲示板使用における留意点を記載しています。

過去ログ：掲示板表示が99件を超えた場合、その超えた分がこちらに出力されます。但しコメントのみで画像は表示されません。

管 理 用：管理者のみ知るパスワードを入力することにより、投稿済み掲示板の編集、削除を行うことができます。

### 2. 機能説明補足

1) この掲示板はクッキー対応です。一度記事を投稿いただくと、おなまえ、Eメール、URL、削除キーの情報は2回目以降は自動入力されます（ただし利用者のブラウザがクッキー対応の場合）。

2) 記事を投稿する際の必須入力項目は「おなまえ」、「コメント」です。

3) 記事には、半角カナは一切使用しないで下さい。文字化けの原因となります。

4) 投稿内容には、HTMLタグは一切使用できません。

5) 記事の投稿時に「削除キー」にパスワード（英数字で8文字以内）を入れておくと、その記事は次回以降削除キーによって削除することができます。

6) 削除キーを未入力にして投稿したデータは管理者のみ削除できます。

7) 記事の保持件数は最大99件です。それを超えると過去ログにコメントデータのみ保存されます。

8) 既存の記事に「返信」をすることができます。各記事の上部にある「返信」ボタンを押すと返信用フォームが現れます。

9) 1ページに表示される表示投稿数は10件です。

10) 投稿データは99件まで表示されます。それを超えた場合、一番古いコメントが過去ログに自動で移されます（画像データは過去ログに入った時点で削除されます）。

## 企画委員会だより

木花 光

本誌を例会の帰りの電車内で読まれている先生も多いと思います。本日の第130回例会はいかがだったでしょうか。遺伝子という硬いテーマでしたが、臨床医にとっても興味深い内容になったはずです。

今後の例会のテーマとして、第131回（平成21年12月6日）が「褥瘡」、第132回（平成22年3月7日）が「膠原病」、第133回（平成22年7月4日）が「人の皮膚と動物の皮膚」を予定しています。その時にこういうことについても話して欲しいということがありましたら、企画委員に連絡してください。

どの学会でもそのようですが、本会でも若い先生の出席が少ないのが悩みです。若い先生は、当直、日直も多く大変ですが、1時間の講演には演者の2、30年以上に亘る経験が詰め込まれており、得るところが多いものです。若い先生にも参加を促してください。参加すれば、当会の良さがわかると確信しています。

## 学校保健委員会だより

武沼永治

### 平成20年度事業報告

◎「子供の健康を守る地域専門家総合連携事業」への協力

◎平成20年2月12日、5月13日、平成21年2月17日

県医師会学校医部会幹部会出席

平成20年11月11日、平成21年2月17日

県医師会学校医部会委託事業推進委員会出席

### 平成21年度事業計画

「子供の健康を守る地域専門家総合連携事業」への協力